

DERWENT-ACC-NO: 1978-11300A

DERWENT-WEEK: 197806

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Decorative glass sheet – comprises laminated glass sheets each having transparent parts and mirror parts

PATENT-ASSIGNEE: SEKIYA B[SEKII]

PRIORITY-DATA: 1976JP-0072971 (June 21, 1976)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
✓JP 52155617 A	December 24, 1977	N/A	000	N/A

INT-CL (IPC): B32B017/00, C03C017/12 , C03C027/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 52155617A

BASIC-ABSTRACT:

Decorative glass sheet comprises glass sheets each having transparent parts and mirror parts. More than 2 sheets are laminated one over the other to produce special decorative pattern.

Symmetric patterns can be formed on each glass sheet so that transparent parts and mirror parts are arranged. By assembling different patterned glass sheets, unique decorative pattern is shown.

Decorative pattern can be given to glass doors, windows or walls.

TITLE-TERMS: DECORATE GLASS SHEET COMPRISE LAMINATE GLASS SHEET TRANSPARENT PART MIRROR PART

DERWENT-CLASS: L01 P73

⑩日本国特許庁

⑪特許出願公開

公開特許公報

昭52—155617

⑫Int. Cl.³

識別記号

⑬日本分類

庁内整理番号

⑭公開 昭和52年(1977)12月24日

C 03 C 17/12

21 B 3

7106—41

B 32 B 17/00

21 B 4

7106—41

発明の数 2

C 03 C 27/00

21 B 5

7106—41

審査請求 有

(全 4 頁)

⑮鏡面を備えた装飾用ガラス体

号

⑯出 願 人 関谷文三

東京都文京区本郷3丁目21番9

⑰特 願 昭51—72971

⑱出 願 昭51(1976)6月21日

号

⑲発 明 者 関谷文三

⑳代 理 人 弁理士 高山敏夫

東京都文京区本郷3丁目21番9

明 細 書

1. 発明の名称

鏡面を備えた装飾用ガラス体

2. 特許請求の範囲

- (1) 透明部分あるいは鏡面部分のある所定のパターンで形成せしめたガラス本体と、前記ガラス本体の背部に配設され、前記ガラス本体のパターンと相俟つて鏡像を変化する鏡面を有した他の構成体とを包有してなる鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (2) 二以上のガラス本体を備え一のガラス本体の透明部分並びに鏡面部分に対し夫々合同の鏡面部分並びに透明部分を有する他のガラス本体を、前記の一のガラス本体に整合してなる特許請求の範囲第1項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (3) 二以上のガラス本体を備え、互に対称のガラス本体の夫々の背面を対向して整合してなる特許請求の範囲第1項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (4) ガラス本体相互を当接して重ねてなる特許請求の範囲第2項および第3項記載の鏡面を備えた装

飾用ガラス体。

- (5) ガラス体相互を離間してなる特許請求の範囲第2項および第3項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (6) 少なくとも一のガラス体を摺動可能に設けてなる特許請求の範囲第2項乃至第5項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (7) パターンを形成する鏡材料に着色を施してなる特許請求の範囲第1項乃至第6項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (8) 透明部分に着色を施してなる特許請求の範囲第1項乃至第6項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (9) 透明部分あるいは鏡面部分のある所定のパターンで形成せしめた一以上のガラス本体と、前記ガラス本体の背部に配設され、総面が鏡面となる鏡体とを包有してなる鏡面を備えた装飾用ガラス体。
- (10) 一のガラス本体の透明部分並びに鏡面部分に対し夫々合同の鏡面部分並びに透明部分を有する一対のガラス本体を鏡体に整合してなる特許請求の

範囲第 8 項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。

④ 互にそのパターンが対称の一対のガラス本体を、夫々の背面を対向して整合してなる特許請求の範囲第 8 項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。

⑤ 互にそのパターンが対称であり、且つ一対のガラス本体の透明部分並びに鏡面部に対し夫々合同の鏡面部分並びに透明部分を有する二対のガラス本体群を鏡体に整合してなる特許請求の範囲第 8 項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。

⑥ ガラス体並びに他の構成体を互に離間せしめ且つ相互にある角度をもつて傾^斜せしめてなる特許請求の範囲第 1 項記載の鏡面を備えた装飾用ガラス体。

3. 発明の詳細な説明

本発明は鏡面を備えた装飾用ガラス体に関する。

本発明はガラス本体に透明部分あるいは鏡面部分のある所定のパターンで形成せしめ、当該ガラス本体と通常の鏡体あるいは複数のガラス本体相互を組合せ、且つ所望に応じてガラス本体並びに鏡体相互を摺動可能にあるいは離間して設ける

またガラス本体 (1a) の透明部分 (2a) 並びに鏡面部分 (3a) とガラス本体 (1c) の透明部分 (2c) 並びに鏡面部分 (3c) とは対称に設けられており、例えばガラス本体 (1a) の背面にガラス本体 (1c) の背面を整合したとき、表裏において同一の透明部分および鏡面部分を有したものとなる。一方、ガラス本体 (1d) のパターンは、ガラス本体 (1a) とガラス本体 (1b) の場合と同様に、ガラス本体 (1c) のパターンと合致する、即ち (2c) と (3d) 並びに (3c) と (2d) が互に合同となるよう設けられ、またガラス本体 (1b) のパターンとは対称に設けられている。尚前記ガラス本体 (1a) ~ (1d) の透明部分並びに鏡面部分で形成されるパターン以外の部分は鏡面 (4a) ~ (4d) として設けることが好ましい。(5) は全面が鏡面として設けられた鏡体である。

尚、前記ガラス本体 (1a) ~ (1d) の鏡面部分を形成するため裏面に塗布する水銀等の鏡材料に、通常の茶色以外の着色を行つてもよい。更に透明部分に彩色を施すこともできる。

更に本発明の使用方法を詳述する。

ことにより、ガラス本体相互またはガラス本体と鏡面とが相俟つて、ガラス本体に形成されたパターンに静的変化ないしは動的变化を持たせることのできる鏡面を備えた装飾用ガラス体を提供することを目的とする。本発明の鏡面を備えた装飾用ガラス体は窓、引違い戸、扉あるいは装飾用壁面等に使用することができる。

次に図面について本発明の鏡面を備えた装飾用ガラス体を説明する。

第 1 図乃至第 5 図において (1a) 乃至 (1d) はガラス本体で、夫々透明部分 (2a) ~ (2d) 並びに鏡面部分 (3a) ~ (3d) が形成されている。透明部分並びに鏡面部分により形成されるパターンは、ガラス本体 (1a) の透明部 (2a) とガラス本体 (1c) の鏡面部分 (3b) が合致すると共に、ガラス本体 (1a) の鏡面部分 (3a) がガラス本体 (1b) の透明部分 (2b) と合致する、即ち (2a) と (3b) 並びに (3a) と (2b) が合同となるよう設けられており、例えばガラス本体 (1a) の背面にガラス本体 (1c) 表面を整合したとき、2 枚のガラス本体 (1a)、(1b) により全面が鏡面となる。

第 3 図 a の如く通常の全面に鏡体 (5) 上にガラス本体 (1a) ~ (1d) の一を重ねれば、鏡面が鏡面をなすと共に前記ガラス本体 (1a) ~ (1d) 自体の鏡面部分 (3a) ~ (3d) と透明部分 (2a) ~ (2d) の背部にある鏡体 (5) の鏡面とが相俟つて立体的な感触を与える 2 段の鏡像面を得ることができる。

またガラス本体 (1a) と (1b) あるいは (1c) と (1d) を、一方の表面が他方の背面と重なるように重ねれば、同様に 2 段の鏡像面を得ることができ、且つ一方を他方に対して摺動せしめれば、後のガラス本体の透明部分と前のガラス本体の透明部分が重なった個所並びに両者が重なった部分以外の透明部分から後方を覗くことができ、鏡像と後方の視界とを相乗して更に異なつた感触を与え得る。

更に第 3 図 (b) の如く上述のガラス本体 (1a) と (1b) あるいは (1c) と (1d) の重合体の背面に通常の鏡体 (5) を重ね、例えば第 6 図の如く中間のガラス体を摺動すれば、ガラス本体の透明部分が重なった個所から、鏡体 (5) に写されたガラス本体背面パターン (即ち表面と対称のパターン) を一部覗くこと

ができ、鏡像に相乗して別異な感触を与え、これに加えてガラス本体相互が鏡材料に同一の彩色あるいは異なつた彩色が施されていれば、尚更に視覚上の変化を増大できる。

一方、パターンが対称のガラス本体(1a)と(1c)あるいは(1b)と(1d)の背面相互を接合したものの背面に鏡体(5)を重ねれば、接合時に更に深みのある2段の鏡像面を得ることができ、第5図の如く例えば中間のガラス本体の摺動時には外側のガラス本体の背面パターンを一部覗くことができ、上述の如く一方のガラス本体の表面に他方のガラス本体の背面を当接して重ねたものに比べ尚更に異なつた感触を与え、鏡材料に彩色が施されていれば異質感が相乗される。

加えて、第5図に示すようにパターンが対称のガラス本体(1a)と(1c)および(1b)と(1d)を夫々組とし、且つ各組を重ね合わせたものあるいはこの重合体背面に鏡体を重ね、一組のガラス本体を同時に他方に対し摺動せしめるように設ければ、摺動時にガラス本体背面のパターンを写すことなく、

深みのある3段の鏡像面を供することができる。

また第4図に示す如く、複数のガラス本体および鏡体(図示では3枚のみ示す)を上述の如く適宜組合わせて互に離間する、あるいは離間させた上互にある角度を持たせて傾斜せしめることにより、鏡像に充分な深さを与え、著しく異なつた感触を与えることができ、更にガラス本体あるいは鏡体の一以上を摺動ないし相対的に揺動し得るよう設ければ、尚更に異質感を相乗し得、且つ鏡材料並びに透明部分に彩色を施すことにより変化を充分に持たせ得る。

上述のように構成された本発明の鏡面を備えた装飾用ガラス体によれば、ガラス本体に形成されたパターンに変動感を与えることができ、ガラス本体に形成されたパターンによる装飾性を顕著に向上し得る等々の効果を達成できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の鏡面を備えた装飾用ガラス体の分解斜視図、第2図(1)乃至(4)は同部分平面図、第3図(1)乃至(4)は使用状態の説明図、第4図は別

の使用状態の説明図、第5図は同動作説明図である。

1a～1d…ガラス本体、2a～2d…透明部分、
3a～3d…鏡面部分、4a～4d…鏡面、5…鏡体

特許出願人

関 谷 文 三

代理人 弁理士 高山 敏 夫

